

京城新報

議所書記長に荻谷壽夫氏新任したるを以て
去の四日付を以て此旨各官廳に通牒したり

本會川丸遂に沈没

大阪商船會社の本曾川丸が去る二日船の
浦附近にて觸座したる事は既報の如くなる
が其後引揚試験の爲め種々苦心中なりしが
一昨日午後一時頃西風烈しかりため終に
船体全部沈没したりといふ

昨米の出廻皆無

舊年中新米の出廻り思はしからずして日々
大豆の出廻のみ多かりしが各商店に於ては
年改めに共に必ず新米の出廻あらんか
と豫想せしに既に數日を經たる昨今に至る
も相變らず通荷殆んど皆無の姿なりといふ
右は全く地方暴徒が米の廻荷を防害し此れ
を掠奪し又は本邦人に米の供給を絶たすの
の爲に外ならずといふ

治外法權

世には不思議で無い事
な事に不思議な事が随分ある世人は格別
何とも思つて居らぬかも知れぬが余輩にとつ
てはおまづ不思議で濟らんから茲に三ツ許
りを御披露に及ぼうと思ふ▲其第一は内地
の新聞紙が揃ひも揃つて暴徒の經濟的影響
に於て何の注意も拂つて居らぬことである
▲第二は主權は日本にあるが、

東京電報

めさすることも、倭城臺にケチな蘭式官舎
建て、盤居的政治を守りつゝあることで
ある。此頃大官と商人とが大分仲良し
爲つて常仕坐臥片時も離れぬと云ふ有様
ソウである。大官と居留民と接近するこ
は至極良し事に於て程度を越すと却て何か
疑を受ける差になるかも知れない。否世
は已に一種の疑を掛けつゝあるのである
所謂スキャンダルの起らない中に御用ひ召
るが大官にとつて最も必要の事と思ふ。
を以て一言御忠告を申上げるのである。

九月（八日發）

る九
所謂スカ
ンダルの
起らない
中に御用
召
に
るが太官
にとつて
最も必要
の事と思
ふ、
を以て一
言御忠告
を申上げ
るのであ
る。

家業王の人の毛図の
 こゝで更々月三はし

る九
所謂スカ
ンダルの
起らない
中に御用
召
に
るが太官
にとつて
最も必要
の事と思
ふ、
を以て一
言御忠告
を申上げ
るのであ
る。

業を閉ぢする、ふ

る九
所謂スカ
ンダルの
起らない
中に御用
召
に
るが太官
にとつて
最も必要
の事と思
ふ、
を以て一
言御忠告
を申上げ
るのであ
る。

受ける基

る九
所謂スカ
ンダルの
起らない
中に御用
召
に
るが太官
にとつて
最も必要
の事と思
ふ、
を以て一
言御忠告
を申上げ
るのであ
る。

[illegible]

商品依託持約代理店ノ仲介
社
元山 鏡城 北内
右各分の間に於各地に設置備中
青鷗平支店

新造最良口附紙卷煙草

진조최량제을부리지컨연초

滿月

滿月

FULL MOON

滿月

滿月

[illegible]

新築落成
龍山元町壹丁目
會席
御料理
景園
電話四六番


新築移轉廣告

弊院儀從來の家屋にては狹隘を感し候間
今般肩書の所へ新築移轉仕り一層町寧懇
切に各科の治療に應じ可申候

追而無代施療券配布方を民團役所へ托し置き候に付藥價に苦
む貧民諸氏は該券請求の上持参あれば無料治療に應可申候

長谷川町二丁目

蘇生病院


日本郵船會社
汽船出帆廣告
 貨物及船客取扱店
 仁川 海康通
 京城 南大門通
 巴 商 回 濟
 電話三〇六六
 電話三〇六六

釜山長崎門司神戶行	月二十五日 午後三時
釜山 山東丸	
釜山門司神戶大阪行	月十四日 正午十二時
淡路 丸	
釜山 門司 神戶 大坂行	月十四日 午後三時
浦沙丸	
第一〇九號	
大連 大沽行	月 日 午後三時
酒田丸	
大連行	月 日 午後一時
新海 口丸	月十日 午後一時
大連 釜山 秦皇島行	月廿四日 午後二時
山東 釜山 秦皇島行	月十四日 前九時
鎮江 浦安 東洋行	
第一〇八號	
浦沙丸	月 日 午後三時
釜山出帆 元山行	月 日 午後三時
弘前丸	月二十九日

御前丸 附 八號 開 渡 止 場 本 船
 送迎船 二號 送迎 可申候 渡 船 八號